

2018年度 大学入試センター試験（本試験）分析と学習のアドバイス

科目： 英語（筆記）

◆全体概況

大問数・解答数	大問数：6題 解答数：54問
難易度	昨年並み
分量	総語数は4,317語で昨年並み

◆大問別分析

大問	出題分野・テーマ等	配点	分析
第1問	発音・アクセント	14	難易度は昨年と変化はないが、カタカナ語が例年よりも多く出題された。平時から単語の発音・アクセントのチェックを怠ることのないようにしよう。
第2問	文法・語法、語句整序、応答文完成	47	文法・語法問題は標準的な問題。語句整序問題については文意よりも文法・構文などの文構造をしっかりと考えれば容易に解答できる。応答文完成問題は、対話の文脈を意識させる要素が強くなった。
第3問	不要文削除問題、発言主旨要約問題	33	不要文削除問題は、例年通りテーマから逸脱するものを選択する形式であり、慎重に分析すれば容易。発言主旨要約問題は問2で2人の意見要約、問3で全員の意見要約が出題されたが全体的な話の流れが掴めていれば問題なかったであろう。
第4問	図表問題、広告読み取り	40	図表問題は「商品選びにおける色の重要性と色の持つ意味」というテーマで比較的読みやすかったのではないかと。設問も標準的であった。広告の読み取り問題は設問数が1問増加し、計算問題が復活した。
第5問	日誌読解	30	物語文読解から日誌へと題材が変化した。難易度自体に変化はない。但し、文章の設定が後半部分になるまで理解できないため混乱した受験生は多かったはず。
第6問	論説文読解	36	科学技術の発展とモノの見方の変化についての論説文が出題された。設問はAの内容把握及び語句類推、Bの段落要旨選択であり、全体的に文章の内容が把握できていれば容易に解答できる。